ISSN 0388－5569
VOL. 6 No. 2
（通巻17号）
1985. 6

Library News

山口大学附属図書館報

目次

情報化社会・ニューメディア・図書館
西村　久……1
《お知らせ》
オンライン情報検索開始……2
退任の辞……木脇祐順……3
昭和60年度附属図書館関係各種委員会
委員名簿……4
寄贈図書……5
人事異動……5
日　誌……5
昭和59年度図書館統計表……6

情報化社会・ニューメディア・図書館

西　村　　久

先日、「山口大学将来計画検討委員会」が正式に発足し、その審議を効率的に進めるために、「審議推進委員会」も機能しはじめた。この検討委員会は、山口大学の将来にかかわる短期、中期、長期の諸計画について審議することになっているが、このうち中・長期計画は、21世紀を睨んだ山口大学の未来像を浮彫りにするものとなるはずである。そこで、これらの計画にかかわって、図書館が今後直面するであろう問題点を取上げて若干のコメントをしておきたいというのがこの文章の目的である。

知識集約型産業を中心とする脱工業化社会すなわち情報化社会の到来が喧伝され、未来学者と自称する人達がジャーナリズムで持てはやされたのは、高度経済成長時代も後半に属するいまから20年乃至15年前のことであった。その底流には、鉄鋼・石油・アルミ各コンビナートなどの重化学工業を戦略部門とする高度成長の限界についての危機感と、新たに開発されたばかりの第３世代コンピュータ（集積回路内蔵）の大量情報処理技術を中心とする先端技術の可能性に対する強い期待感があった。そして、この可能性が急速に現実化され、それをイッキに時代の寵児にまで押し上げたのは、２度の石油ショックを克服するための技術革新の必要と、それに関連する複合先端技術産業による経済の再編成であった。エレクトロニクス、メカトロニクス、OA、FA、ニューメディア、新素材、バイオテクノロジー、ニューインフラストラクチュアなどの言葉は、いまでは全く日常的な用語として定着してきているが、これらの用語は、20年前には、ごく限られたひと握りの人びとの言葉でしかなかった。私がNHKの正月番組で、はじめてDNA操作の話を聞いたとき、その内容を充分に理解できないままに、これは神の摂理に反するとんでもない考え方だ、こんなことをやれば、これまで以上に深刻な公害現象を引き起すのではないかと、強い反発を感じたのもそれほど古いことではないのである。

しかし、なにはともあれ、今日、ニューメディアの発達はまことに目覚ましく、好むと好まざるとに拘わらず、図書館にもその波は押し寄せてきており、山口大学の図書館がこの波に少しでも乗りおくれれば、山口大学の学術研究体制は、全国水準から大きく取残されることは間違いない。もともと図書館は、紙に文字や図形を印刷した図書や雑誌を、収集し、保存し、要求に応じて速やかに利用に供することが使命であり、そのことは現在でも変りはない。変ったのは、利用者ニーズが多様化・複雑化し、情報媒体が紙媒体の印刷物だけでなく、さまざまな材質の記録媒体が開発され、それに応じて、蓄積されるべき情報量が飛躍的に増大し、情報提供の方法も急速に多様化してきたということである。今日の情報媒体は、紙媒体の印刷物だけでなく、レコード、マイクロ資料、映画フィルムから、ビデオテープ、磁気テープ、フロッピーディスク、光ディスク（レーザー光ディスク）など新しい材質の記録媒体がつぎつぎに開発され、それに記録できる情報量は飛躍的に増大

してきている。またそれに応じて、情報の蓄積や検索も、多種多様のハードウエアの助けを借りて、利用者ニーズの多様化・複雑化に対応できるようになってきた。とくに最近では、光ファイバーの実用化によって大量の画像情報の伝達が可能となり、テレテックス、ビデオテックス、CATV、INS、VANなどのニューメディア関連のネットワークが整備されれば、これまでの紙媒体印刷物による情報伝達に絶対的な価値を認めてきた価値観念を大きく転換しなければならない時代が目前に迫ってきているのである（ただし、従来の図書・雑誌等による情報伝達が依然として多大の価値を持っていることを否定しようとするものでないことを念のために断っておく）。

いまや、「情報の洪水」のなかで、相当厳重な取捨選択をしても、蓄積さるべき情報量は増大の一途をたどっており、また図書館利用者の情報への依存度の増大とニーズの多様化は確実に進行するものと考えねばならない。それに対して図書館の容量には限界があり、全部の書架を集密書架に改めても、収容スペースの狭隘化は日ならずして必ずやってくるし、さらにニューメディア関連機器の収納スペース等も考慮に入れれば、図書館の建物についても、ここらで大きく発想の転換をして新機軸を打ち出す必要があるように思われる。巷間伝えられるような「ペーパーレス」時代が到来するかどうかについては予測の限りでないが、現在約105万冊の蔵書を持ち、年間約3万冊ずつ蔵書が増える状態がつづけば、ここ数年後に計画している約2,000㎡の増築も、やがて限界がくることは目に見えているので、その次の5か年計画の段階では、抜本的な改築計画を考える必要があると思われる。そこで私としては、前記の将来計画委員会あたりで、山口大学附属図書館ファインビル構想でも打出して貰えればと考えるのであるがいかがであろうか？

つぎに、やや短期的な問題であるが、文部省は、昭和55年の学術審議会の答申を受けて、学術情報システムの整備を図っており、今年度から全国共同利用施設である東大文献情報センターを中核にして、全国図書館ネットワークによる目録・所在情報サービスの提供を計画しており、すでに4月からは、東工大、名大、阪大の附属図書館とネットワーク接続し、図書・雑誌目録検索・作成サービスを開始している。山口大学附属図書館も、「山口大学情報処理センター」と共同して、当然このネットワークに加わり、文献情報交流を質量ともに飛躍的に増大させる積りである。またそのためには、山口大学自身の図書文献情報を正確かつ迅速に外部の利用者に伝達できるようにデータの構築を急がねばならないのである。けだし、全国情報ネットワークというのは、全国のデータを一か所に集め、それを利用者全部が相互利用できなければその利用価値を発揮できないからである。その意味で、情報化社会というのはまさに知識集約型社会であり、それだからこそ図書館職員は、従来の日常業務を確実にこなしながら、さらに新知識の吸収とその応用に毎日全力をあげて取り組んでいるのである。いくらハードウエアが発達しても、最後の決め手はそれを使いこなす人材の養成である。全学の皆さんの御協力と御支援をお願いする所以である。　　（附属図書館長）

《お知らせ》

オンライン情報検索開始

下記データ・ベースのオンライン情報検索サービスの利用をはじめましたのでお知らせします。

1. DIALOG
   （本館及び工学部分館で利用）
2. JOIS
   （工学部分館で利用）

詳細については本館参考係または、工学部分館事務室にお尋ねください。

退　任　の　辞

木　脇　祐　順

約40年に及ぶ大学生活の最後の２年間を附属図書館長として何とか無事に勤めさせていただき私個人としては幸運な終末であった。今ほっとしている次第で何か御挨拶をと考えてもよくまとまらないが駄文をつらね責をふさぐ次第。

就任早々埋蔵文化財の出現でおくれていた増築の工事がはじまった。建物の一部の取こわし、基礎工事等で相当の騒音を出すのでその対策には松川部長ともども気をつかわされた。増築を機に内部の模様替と空調装置の取付を行うことになり、極力努力したが半年近く休館せざるを得なかったのは残念ではあったが年末には無事竣工し年が明けて自祝もし学内にも御被露することが出来た。出来上って図書の移動中に参考係の西野君が事務室で文字通り急死したのはショッキングな出来事であった。私としては、どういうめぐりあわせであったのかたった２年の在任中に本館と工学部分館の増築と医学部分館の改築が次々に行われて、大学図書館として面目を一新出来た。工学部分館と医学部分館は各々の学部の特色のある図書館の運営が行われている。本館は増築により立派になると維持費が増加した。特に光熱費のことがなやみであった。一年目は工事中で休館の期間があったので面積が増えた割には、冷房もせずにすんだけれども節電に気をつかった。必要でない電気は極力使わないように学生諸君にも協力を依頼したが館長がやめれば館長の俸給で電燈代位出るではないか、おせっかいするなという学生の云い分には唖然とするだけであった。夜全館明か明かと点燈しているのを見た教官諸氏からは大変ですねと同情されたりした。２年目は色々と試算をして予算委員会に光熱費の増額をおねがいしたが毎年光熱費で苦労しては大変であろうと60年度から経常費の中に繰入れていただくことになった。昨年は夏があまり暑くなかった所為もあったが色々工夫した結果冷房期間を本部より長くすることができた。暑いさかり閲覧室がすずしいと勉強がよく出来ると感謝の言葉を聞いた事はうれしいことであった。

私の任期中は丁度緊縮財政にぶつかり、予算が固定され図書購入ものびず、特に外国雑誌に対する補助が年々減ってきて最初から協力願った教官には迷惑をかけたが雀の涙程は予算をやりくりした。せっかく増築で書架もふえたこともあり雑誌の集中化が出来ればと理科系の図書館委員と種々協議ねがっているうちに理学部の教官からの申し出があり、はじめに化学系、次で生物系の雑誌をバックナンバーを含めて、本館に入れていただくことが出来た。農学部からもバイルシュタイン叢書をはじめ少しずつ本館に入れていただけた。色々研究上の条件もあろうかと思われるが共有の文化財として利用率をあげていただきたい。

現実に図書館長となって考えさせられたのは大学図書館とは何であろうかということであった。理論的には大学の学術の中心であっても現実にはそれほど簡単でない。教官向けの図書館とすれば研究用の専門図書館でなければならないし、学生向けとすれば学習図書館でなければならない。国立大学でも色々他所の図書館をみせていただいているうちに大学図書館はそれぞれの大学で少しずつニュアンスの違があるように思われてきた。建物の模様も違うけれども集書の仕方がそれぞれの大学の図書館の特色があるように思われた。早い話山口大学でも一般教養課程の学生をかゝえている本館と専門課程に重点のある工学部分館・医学部分館ではそれぞれちがっている。本館は吉田キャンパスにある学部の連合体の感じもあって特に開架図書と閲覧室は学習図書館としての雰囲気がつよく、集書もそのような傾向にある。書庫に入ると少し専門書が多くなるけれど専門にすゝんだ学生にとっても物足らなく感じると思われ、いわんや教官の研究用としてはいささかさびしいと思った。もっとも教官の研究用図書は各々の教官なり講座で研究費で購入され研究室備付として使用するから当然であろう。実際教官が研究用に購入される本をみているときわめて広い分野にわたり、多彩で私などからみてこんな分野があったのかとおどろくばかりであった。この貴重な研究資料が書庫にかえってきて学生の好学心をゆさぶってくれたらと思った。猶本館には旧制の山口高商という創立のふるい学校の図書や旧制山口高等学校の図書があり又旧徳山藩の棲息堂文庫、国吉文庫、赤松文庫等の特殊文庫もあり旧林家の文書を中心とした文書類も収納されていて誇るべき資料もあるがそれも旧制の大学

のそれにくらぶべくもない。大学が研究者の集団である以上もっと研究用の専門図書館としてしっかりとした目的で集書しなければと思いつゝも少ない予算でどうにもならない。もっと図書購入費がほしいと願ったが世の中は外にもお金が入ることがあって本までまわってこない。しかし我が山口大学でも経済学部では委員会をもっておられて学部として独自の集書に努力されているのは図書館長としてはありがたかった。その上経済学部には東亜経済研究所という別格の集書機関をもっておられ資料の収集をされておられるがこの研究所が山口大学の目玉になるように感じた。

本館の学習用図書の選定についても現在は各教官に選書をおねがいするシステムをとっているが学科別位、専門別位のグループで本をえらんでゆかないとかたよったりどこかに穴があくような気がしてならなかった。少し図書の選定に別なシステムを考える必要性が出て来たのではないか。

もう一つ図書館をあづかって予想外だったのは図書館の機械化の仕事が、特にソフト面での仕事の進捗がわるいことであった。図書館員の多大の努力にもかかわらず学内外の種々のネックがあって予定がずれてしまった。これは本学だけでなく日本全体でも同様のようだが早く問題が解決され図書館員の努力が無駄にならない様いのると共に学内の理解を得たいことであった。

（前附属図書館長）

昭和60年度附属図書館関係各種委員会委員名簿

◇ 運営委員会

◎印は委員長

◎西村　久（館長）　竹尾　和典（医学部分館長）　早野　延男（工学部分館長）
内山　俊彦（人文学部）　添田建治郎（人文学部）　杉尾　守（教育学部）
堂面　春雄（教育学部）　下和田　功（経済学部）　吉村　弘（経済学部）
安倍　清彦（理学部）　飯石　一明（理学部）　黄　基雄（医学部）
清水　茂俊（工学部）　川島東洋一（農学部）　足立　収生（農学部）
渡辺　信生（教養部）　熊谷　寛次（教養部）　篠崎　文彦（附属病院）
緒方　幡典（医療技術短期大学部）　池谷　元伺（工業短期大学部）

◇ 本館図書委員会

◎西村　久（館長）　内山　俊彦（人文学部）　添田建治郎（人文学部）
杉尾　守（教育学部）　川村　博忠（教育学部）　下和田　功（経済学部）
吉村　弘（経済学部）　大城紀代市（理学部）　君波　和雄（理学部）
川島東洋一（農学部）　足立　収生（農学部）　古賀　秀男（教養部）
西岡　道夫（教養部）　上島順二郎（事務部長）

◇ 医学部分館図書委員会

◎竹尾　和典（分館長）　黄　基雄（基礎）　篠崎　文彦（臨床）
芳原　達也（基礎・助講）　小田　裕胤（臨床・助講）　緒方　幡典（医療短大）

◇ 工学部分館図書委員会

◎早野　延男（分館長）　河野　俊一（機械）　池田　攻（資源）
梶返　昭二（工化）　浮田　正夫（土木）　平田　威彦（電気）
石田　武（生産）　薄井　洋基（化工）　田中　正吾（電子）
三浦　房紀（建設）　松浦　満（共通）　三好　正毅（工短）
松崎　浩司（工短）

寄贈図書

（本　館）

牧田登之（農学部助教授）
光学・電子顕微鏡による細胞と組織
Ⅰ・Ⅱ．E・B　サンドボーン著
牧田登之訳　東京大学出版会　1973～74

西脇太郎三衛門（理学部教授）
高ひずみ化合物の化学　秦　美輝著
化学同人　1972

人事異動

〔昇　任〕

牧　原　和　仁	整理課総務係長（主計課予算係主任から）	60．4．1
上　田　照　賀	医学部分館閲覧係長（徳山工業高等専門学校庶務課図書係から）	60．4．1

〔配置換〕

伊　藤　和　夫	整理課整理係長（閲覧課雑誌係長から）	60．4．1
安　田　浩　規	閲覧課雑誌係長（工学部分館整理係長から）	60．4．1
伊　藤　　巌	工学部分館整理係長（工学部分館閲覧係長から）	60．4．1
三　浦　博　士	工学部分館閲覧係長（医学部分館閲覧係長から）	60．4．1
木　村　賢　治	農学部会計係長（整理課総務係長から）	60．4．1

〔併　任〕

西　村　　久	附属図書館長	60．4．1

〔退　職〕

竹　永　久太郎	（整理課整理係長）	60．3．31
木　脇　祐　順	（附属図書館長）	60．4．1

日　誌

2月6日（水）　工学部分館図書委員会
2月8日（金）　機械化推進委員会及び電算化のためのNECとの定例会
3月8日（金）　機械化推進委員会及び電算化のためのNECとの定例会
3月11日（月）　図書館職員研修会：大学図書館を根元から考える（東洋大学教授 石井　敦）
3月12日（火）　工学部分館図書委員会
3月15日（金）　附属図書館防火訓練
3月22日（金）　図書館職員研修会：大学図書館における情報検索サービスについて（図書館情報大学教授　松村多美子）
4月5日（金）　機械化推進委員会及び電算化のためのNECとの定例会
4月18日（木）～19日（金）　第33回中国四国地区大学図書館協議会総会（於　松江東急イン）
4月24日（水）　第44回附属図書館運営委員会
4月26日（金）　電算化のためのNECとの定例会
5月9日（木）　工学部分館図書委員会
5月16日（木）～17日（金）　第55回日本医学図書館協会総会（於　東邦大学医学部）
5月21日（火）　国立大学附属図書館事務部課長会議（於　東京医科歯科大学）

昭和59年度図書館統計表

Ⅰ　蔵　書　数（昭和60年3月31日現在）

区　　分	図　書（冊数）			雑　誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
本　　館	611,893	227,535	839,428	7,115	2,848	9,963
医学部分館	62,684	54,146	116,830	1,112	1,029	2,141
工学部分館	64,645	37,417	102,062	1,117	652	1,769
計	739,222	319,098	1,058,320	9,344	4,529	13,873

Ⅱ　年間受入数

区　　分	図　書（冊数）			雑　誌（種類数）		
	和	洋	計	和	洋	計
人文学部	2,722	1,618	4,340	170	129	299
教育学部	3,736	1,031	4,767	363	263	626
経済学部	5,248	2,432	7,680	725	566	1,291
理学部	299	968	1,267	47	191	238
農学部	434	237	671	81	134	215
教養部	2,875	1,691	4,566	139	287	426
学生相談所			0		3	3
保健センター	60	4	64	7	2	9
埋蔵文化財資料館			0	6		6
本　　館	4,328	1,128	5,456	3,379	615	3,994
小　　計	19,702	9,109	28,811	4,917	2,190	7,107
医学部分館	2,308	2,354	4,662	750	712	1,462
工学部分館	2,657	5,403	8,060	738	536	1,274
合　　計	24,667	16,866	41,533	6,405	3,438	9,843

Ⅲ　利用統計

区　分	開館日数(日)		入館者数(人)			館外帯出者数(人)			館外帯出冊数(冊)		
	時間内	時間外	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計	時間内	時間外	計
本館	263	193	191,653	31,320	222,973	24,158	5,983	30,141	43,500	10,929	54,429
	一日平均		729	162	—	92	31	—	165	57	—
医学部分館	262	250	30,739	21,760	52,499	13,464	9,607	23,071	27,850	17,577	45,427
	一日平均		117	87	—	51	38	—	106	70	—
工学部分館	263	185	27,884	6,883	34,767	6,183	2,067	8,250	11,775	3,424	15,199
	一日平均		106	37	—	24	11	—	45	19	—

Ⅳ　文献複写（件数）

区　　分		学内者			学外者	他大学等			合　計
		私費	公費	小計	私費	私費	公費	小計	
電子式複写	本　　館	1,229	458	1,687	64	476	819	1,295	3,046
	医学部分館	3,789	5,006	8,795	1,406	963	847	1,810	12,011
	工学部分館	236	15,490	15,726	56	23	546	569	16,351
	合　　計	5,254	20,954	26,208	1,526	1,462	2,212	3,674	31,408
印画引伸	本　　館	2	0	2	0	0	0	0	2

編集・発行　山口大学附属図書館　〒753 山口市大字吉田　電話（0839）22－6111 内線788